

2012国民平和行進島根県実行委員会ニュース

2012年7月23日(月) 第1号
発行：島根県労働組合総連合 (TEL0852-31-3396)

県内行進(7月30日まで)に参加しましょう!

平和行進が県内入り! 安来~東出雲~竹矢を行進!



【7月21日AM 安来市】中央は通し行進者の五十嵐成臣さん

7月20日、国民平和行進の富山~広島コースが島根県内に入り、県内行進が始まりました。平和行進は“ノーモア・ヒロシマ! ノーモア・ナガサキ!” “核兵器のない世界を”と訴え、全国を歩きます。1958年、被爆地広島から東京へ1千キロもの道のりを歩く最初の行進が行われました。このときの参加者は毎日2人3人と増え続け、延べ100万人になりました。以来、半世紀に渡って雨の日も風の日も毎年休まず続けられ、今では全国の7割を超える自治体を通過し、毎年10万人が参加する国民的行動となっています。

核兵器廃絶を願う人なら誰でも参加できる行動です。30日までの県内行進に各組織から積極的に参加し、大きく成功させましょう。



【7月20日 安来市】(左) 市長と市議会議員からペナント(右) 夕方、五十嵐さんの歓迎会を開催



7月20~22日の行進と署名行動

- 20日 県境で引継ぎ、安来市へ要請行動、通し行進者歓迎会
参加者31人(県原水協3、しまね労連3、県教組2、松江保健生協労組1、全日赤松江1、出雲市民病院労組1、昌林会労組1、大田市立病院労組1、恵和会労組1、県医労連1、全労働1、国交労組(運輸)2、新婦人6、島高連1、農民連2、民医連1、共産党2)
- 21日 AM: 安来・荒島、PM: 下意東~揖屋
参加者 AM10人(通し行進1、県原水協1、しまね労連1、県教組2、新婦人2、農民連1、共産党1)
PM 6人(通し行進1、県原水協1、しまね労連1、松江保健生協1、新婦人1、労山1)
- 22日 揖屋~出雲郷~竹矢
参加者10人(通し行進1、県原水協1、松江保健生協労組1、松江保健生協1、生健会2、東出雲原水協4)

☆「核兵器全面禁止のアピール」署名: 133筆

☆沿道募金: 36,468円

通し行進者の五十嵐成臣(いがらし・しげおみ)さんは、東京都立川市在住の68歳。高校生の時に地元の平和行進に参加して以来、毎年都内の行進に参加、退職してからは通し行進者として毎年参加されています。

今年は富山~広島コースに参加。大飯原発がある福井県おおい町も、再稼働決定直後の7月1日に行進。かなり緊張したものの、「再稼働はだめや」と沿道からの声や、すれ違うドライバーの手振りに励まされたとのこと。



22日には山口県岩国市で「オスプレイ配備反対緊急集会」が開かれました! 裏面にレポートを載せています!

世界一危険な飛行機・オスプレイはいらない！ 傍若無人な低空飛行訓練はやめよ！

山口県岩国市の「オスプレイ配備反対緊急集会」に島根県から23人、全体で1,100人が参加！

22日、山口県岩国市で「オスプレイ配備反対緊急集会」が開かれました。この集会は本日（23日）にも行われようとしている世界一危険な飛行機MV-22オスプレイの陸揚げの中止、危険な米軍機の超低空飛行訓練の中止、国民の命と安全より米軍の意向を優先する日米安保体制の見直しを求めるもので、緊急の呼びかけにもかかわらず、近畿・中四国・沖縄から合わせて1,100人が参加、会場は熱気に包まれました。



【7月22日 岩国市役所前広場】
島根県からは23人が参加しました



集会では、日本政府が国民の安全より日米安保条約を重視する姿勢、県と41の市町村議会すべてで配備反対などの意見書を可決した沖縄のたたかいが報告され、地元岩国からは23日早朝から海上で監視行動を行う決意が表明されました。

島根県からは多田伸治さん（浜田地域労連）が、県西部の低空飛行訓練による騒音被害のたたかいについて報告しました。

この後、日米両政府にオスプレイの陸揚げを中止し、国内への配備計画の撤回を求める集会アピールを採択（右記）、JR岩国駅までパレードを行いました。沿道の市民からは、手振りや励ましの声が多く寄せられました。



集会で採択されたアピールです！

米軍は明日23日にも、米軍岩国基地に新型輸送機MV-22オスプレイを陸揚げしようとしています。市民、県民あげての反対の声を無視する許し難い暴挙です。

オスプレイはこれまで少なくとも9回も大事故を起こし、36人の命を奪っています。この事実は、「機体に構造上の問題はない」という日米両政府の説明に何の根拠もないことを示しています。

米軍は、岩国基地での試験飛行を経て、沖縄普天間基地に配備し、沖縄はもちろん、日本全土に設けた7つの訓練ルートで低空飛行訓練を実施する計画です。これを許せば、すべての国民が爆音被害と墜落の危険にさらされます。

配備が計画されている沖縄は、「世界一、危険な飛行機を、世界一危険な飛行場に配備することは絶対に認められない」の思いで一致団結しています。

岩国市長、山口県知事も、市民、県民の怒りの声に押され、日本政府に配備手続きの中止を強く求めています。

しかし、日本政府は「オスプレイ配備は、日米安保条約にもとづくアメリカ側の権限であり、とやかく言えない」と言い、傍若無人の低空飛行訓練についても「安保体制を維持するために必要」と、卑屈な対応に終始しています。国民の命と安全より、日米安保体制を優先する政治でよいのでしょうか。

私たちは日米両政府に訴えます。

岩国基地へのオスプレイ陸揚げは中止し、国内への配備計画は撤回して下さい。傍若無人の低空飛行訓練は即刻、やめてください。

国民の命と安全より、米軍の意向を優先する日米安保体制は見直して下さい。

2012年7月22日

7/22オスプレイ配備反対緊急岩国集会